

平成 27 年度 広島県生物多様性普及員 人材育成講座（自然再生編）第 6 回講座終了

1 第 6 回講座は、最後の座学

平成 27 年 11 月 8 日（日）に、広島県立総合体育館ミーティングルームを会場として第 6 回講座を開催し、14 名が出席しました。今回は、森林の多様性と事例紹介を中心とした最後の座学を行いました。

オリエンテーションで、主催者あいさつおよび簡単なタイムスケジュールを説明した後、第 6 回講座の目的（①森林の多様性を知る ②八幡地域の生物多様性に関する取り組みと地元住民の思いを知る ③生物多様性の伝え方のヒントを得る）について全員で確認し、早速講義を行いました。

2 講義「森林の多様性と里山保全」



本講座の主題でもある「森林の多様性」について、環境カウンセラーの吉田悦子さんからお話を聴きました。

かつては生活の一部として非常に大切にされてきた森林が、今では手入れがされていないものも多く、自然災害などとの関係も深いことを冒頭に話され、森林がもつさまざまな機能（生態系サービス）について解説していただきました。一言で「森林」と言っても、自然林をはじめ人工林、針・広混交林などさまざまな種類があること、また森林の構成の違いによる土壌への降雨の浸透と河川流出パターンと、土壌に含まれる空気量（孔隙率）が関係していることなどを、図を用いてわかりやすく解説していただきました。



座学で森林の多様性について学んだ後、雨が心配な空模様でしたが、広島県立総合体育館周辺や広島城址公園など 5 箇所、実際に植生と土壌の違いを観察しました。

3 講義「八幡地域と生物多様性」

昼食・休憩後、「八幡地域と生物多様性」と題して講義を行いました。



これまで第2・3・5回講座で訪れ、実践型観察会を行った霧ヶ谷湿原がある「芸北 高原の自然館」の学芸員で主任の白川勝信先生を講師にお迎えし、八幡地域の生物多様性に関する取り組みや、それに関わる住民の思いなどについてお話をいただきました。



初めに、午前中の森林の多様性に関する講義について、「広島では2次林が多いこと」「スギ・ヒノキよりもマツが重宝されていて、庶民が利用できたのは下に落ちた枝だった。だからマツ林は人が頻繁に出入りして下草が刈られており、マツタケが多く生える環境となった」ことを補足解説していただきました。

本題に入る前に、白川先生から「里地が先か、里山が先か」という問いが投げかけられました。人が暮らす場である「里地」と人が利用する場である「里山」は、どちらが先にあるのか。改めて考えると、私たちの周りにある全てのものと自分との関わりを再確認することができました。

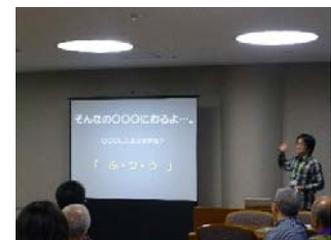
早速、本題です。白川先生から八幡湿原の再生事業の概要と、今現在行われている「せどやま事業」について紹介していただきました。「せどやま事業」では、裏山にある木材を切り出して販売し、その売り上げは地域通貨で支払うという制度で運営されていました。地域通貨なので、必ず芸北地域で物質循環が起こる仕組みになっていることに、受講生は大変感心していました。また、材木の切り出しを子どもたちが体験し、労働力の対価として支払われた地域通貨でパーティーを開くなど、世代を越えた地域ぐるみの取組みが行われていました。この事業で地域の人々が元気になり、地域活性化につながっていることが理解できました。



4 事例紹介「生物多様性を伝える」

続いて、生物多様性を伝える事例として、環境カウンセラーの奥山秀輝さんから小学校での取り組みのお話を聴きました。

奥山さんは、北広島町の豊平小学校と三次市の三和小学校で、生物をテーマにした学習の非常勤講師を務められています。豊平小学校では、地元の人には「いることが普通」だと思っているオオサンショウウオをはじめ、「水田」をフィールドとした「お米」と生物のつながりについて学習活動を通して伝えられていました。

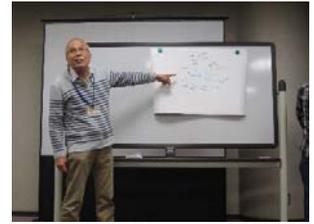


『何もない』→『実はたくさんある・いる』→『私たちとつながっている』『生きものを守りたい』→『地域への愛着心の向上』という道筋で、地域の生物多様性を伝えられていました。特殊な場所や希少生物は関係なく、「いつでも」「どこでも」生物多様性は伝えることができることがわかりました。

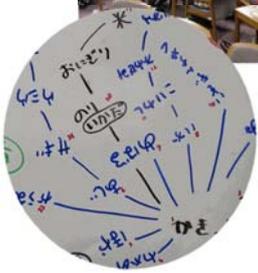
受講生は、学校の授業という特殊な場ではありますが、子どもたちへの伝え方や伝える内容について、関心を持って聞き入っていました。自分たちの身近な場所に置き換えるとどうなるか、ぜひ考えて欲しいと思います。



事例紹介の後に、生き物のつながりを実感できるワークを行いました。グループに分かれて「カキ（牡蠣）」を題材に、カキにつながるありとあらゆるモノを書き出していくというものです。全てに繋がっている「人」は 1 回しか使えないというルールで、つながりを図式化していきました。出てきたキーワードは「イシダイ」



「プランクトン」「川」「海」「竹」「トビ」「人」などさまざまな分野からたくさん出てきました。短い時間のワークでしたが、「おもしろかった」「これなら自分でもできそう」など、今後の活動のヒントが得られたようでした。



5 ふりかえり・わかちあい

最後に、ふりかえりシートを用いて 1 日の振り返りを行いました。講義や事例紹介で思った以上に時間がかかったため、各自でシートに記入したところで終了時刻となりました。

恒例となった「漢字 1 文字による感想」では、「保」「土」「山」「連」「里」「次」「生」「教」「実」「涙」「感」「伝」「関」などさまざまで、つながりや関わり、感動など、それぞれに得るもの・考えるものがあつたようでした。

講座も残すところあと 1 回になり、次回はいよいよ最終回を迎えます。これまでの講座の集大成である修了式を行います。これからの活動も考えながら、全員出席で最終回が迎えらることを祈ります。

【作成】株式会社無垢～ムーク～（三原市久井町江木 1611-1）

【発行】平成 27 年 11 月 13 日